

No.2420



教育ルネサンス

変わる放課後 4

学ふ育む



学校統廃合後の「学童」は？

少子化で全国的に小学校の統廃合が進み、学童保育も対応を迫られている。

「先生、1年2組7人そろいました」「はい、さようなら。気をつけて」

12日午後3時過ぎ、富山県魚津市立よつば小学校の校舎前では、児童が数人ずつ列に並び、教員に声をかけ校門を出る。外に待機するバスに乗り込む児童もいる。

普段の放課後に見られる風景で、校外に2か所ある放課後児童クラブ(学童保育)に向かう児童たちだ。

よつば小は2018年春、少子化のため4小学校を統合し開校した。国では安全上、学童保育施設は学校付近が望ましいとするが、児童の住む



場所が広範囲にわたり、約700名離れた児童館とバスで約10分の公民館に分けた。

児童館までは徒歩10分程度で、商店や病院があるため交通量も多い。住民から「子どもが遊びながら歩いていて危ない」との声が寄せられるこ

授業の後、教員にあいさつをして約700名離れた学童保育に向かう児童ら(12日、富山県魚津市立よつば小学校で)

ともある。

現在、児童館の学童保育利用者数は国の基準をオーバーしている。今年4月から一部児童は、学校から1キ・リ離れた別の公民館に新設する学童保育に徒歩で通う。児童館には低学年を優先するといふ。

市子ども課保育係の堀内京子係長は「市として一番気を配るのは児童の安全」と話す。警察や市教育委員会などの現地調査では、見通しの悪いカ

ープなど危険箇所4か所が見つかり、見守りボランティアを配置する。

市立小7校は23年度までにさらに3校減る。保護者からは、学童保育について「安全のため1か所に統合するべきだ」「統合せず地元にも残してほしい」との意見がある。「地域の事情に配慮しながら、ケースごとに解決策を探るしかない」と堀内係長は話す。

魅力ある学童保育や放課後活動で児童数を増やした小学校もある。

福岡県宗像市吉武地区では住民らが、地区唯一の小学校の吉武小学校の児童向けに勉強を教えたり、英語に親しむイベントを開いたりする放課後学習教室を続けている。

同小は少子化で、ピークの1979年に250人いた児童は半数以下になり、地元では統廃合が心配されていた。

住民らは隣接学区からの越境入学も可能な点に着目。越境入学を増やそうと、13年に放課後学習教室をスタートし、14年には、学童保育とあわせた運営を始めた。

吉武小の児童数は14年度の103人から18年度は147人に急増。14年学童保育利用者は月平均で18人、17年度は月平均で35人とほぼ倍増した。

「多彩な活動やしつかり子どもを見てもらえる」との評判が、近隣学区の共働き世帯などで広がっているようだ」と市の担当者は話す。

工学院大学の安部芳絵准教授(教育学)は、「小学校の統廃合は注目されるが、学童保育は見落とされがち」と指摘し、「放課後も子どもの発達に重要な時間。統廃合の際には、自治体や地域で子ども放課後の過ごし方をしっかりと考えるべきだ」としている。